

平成31年度 八丈町立三原小学校 学校経営方針

1 三原小学校について

三原小学校は、平成19年度に檜立小学校と中之郷小学校が統合して開校しました。その後平成25年度に末吉小学校も統合し、3地区の児童が通う学校です。

3地区にはそれぞれに文化と伝統の継承があり、価値観が異なる部分がありますが、児童の成長を願って保護者が協力し、現在に至っています。それだからこそ、地域に根ざした学校を構築していくことが大切で、保護者、地域、学校が協働して新たな伝統を作っている段階です。

目指す学校像

三原小学校教育目標
心ゆたかで、思いやりのある子供
ねばり強く学習する子供
すすんで体をきたえる子供

小中一貫教育

三原中学校教育目標
やさしい人
たくましい人
よく学ぶ人

もっと 学びたい

友達といると楽しい

明日も学校へ行きたい

保育園・中学校・高等学校と協働し、保護者とともに子供主体で考え、実践する学校

家庭や地域から信頼され、児童の将来を保証する学校

教師の三つの力

日々の教育活動の中で身に付ける能力

- 1 **影響力:肯定的な影響力⇒指導の力**
- 2 **人格の力:子供に慕われる力 信頼と尊敬**
- 3 **管理の力:子供の生命を守る力**

教職員の基本姿勢 新指導要領への変革

何を教えた⇒何ができるようになった

すべての教育活動は、子供の資質と能力を高めるため：基礎学力と下記の能力の育成

自律性

コミュニケーション能力

探究心

情報活用力

創造力

共生的な態度

小規模校の利点を生かし、個に応じたキャリアプランを児童・保護者とともに考える
：児童アンケート(1学期実施)の実施と考察と活用

教師自らが教育環境であることを自覚し、最大限活用する

学力向上について 1

- できない状態からできる状態へのやり方を身に付けさせるために、プロセスを味わわせ、

新しい課題に対しても応用ができるように指導する

学習規律

学習方法の獲得

ねばり強さ

話 型

興味関心・意欲

適切な課題

学ぶことが好きな子供の育成: 高学年に向けて主体的に学習する習慣を育成する

自らのキャリアプランに基づき、目標を設定し教師に支援してもらいながら学習を進める

学力向上について 2

体幹を鍛える
正しい姿勢

自己評価力の育成

キャリアプランに沿った主体的な学習

活用資料：ベーシックドリル・進級ドリル

個人カードを作成し、数値化と見える化と共有化

単元の評価目標80%を目指し、PDCAの手法を用いて、授業改善及び家庭学習改善などを行う
* 低学年については90%を達成目標とする
* 小テストなどは、100%できるまで繰り返し指導を行い、ワークテストで目標数値に達しなかった場合は、ケース会議を開く

評価資料例

	氏名	単元名	自律性	コミュニケーション能力	探究心	情報活 用力	創造性	共生的 な態度	各単元 の目標
1	A・B		A	B	A	A	B	B	A
2	C・D		C	B	B	A	D	B	B
3									
4									

評価規準をあらかじめ設定し、観点ごとに評価し、積み重ねながら個に応じた指導法の工夫を行う
今年度も評価規準を作成する年度とする(研究部)

週案には、各1単位時間で自律性・コミュニケーション能力・探究心・情報活用力・創造性・共生的な態度の6項目の記入を行い、手立ても記入する。

生活指導 I

当たり前前のことを当たり前前に行える子供の育成

生活習慣の確立: 自分のことは自分でできる。個人としての礼儀と作法を徹底する

あいさつ

整理整頓

返事

衛生

食事

健康

世の中に出て、恥をかかない人間に育てる: 自尊感情

社会性の育成: 集団の中でめあてをもった言動がとれるような人間に育てる。* 三原っ子宣言

会話

遊び

自らの役割

思いやり

自他の尊重

集団の中で役に立っているという思いを育てる: 自己有用感

生活指導Ⅱ

ハウレンソウのおひたし

怒らない・否定しない・助ける・指示する

・教師の基本姿勢: 困った子ではなく困っている子(カウンセリングマインド)

子供の問題行動は、模倣であり、大人へのサインであり、自己防衛である。
事実の把握とともに

真実の把握に努め、自力解決ができるよう、能力に応じて手立てを講じる。

担任一人で解決するのではなく、組織で対応する。

・児童の安全・安心を保証する

安全の確保: 毎月行う、校舎内外の安全点検と改善

地域安全マップ(1学期改訂)の情報の共有化と安全指導、環境の改善

いじめや虐待の根絶

子供に寄り添い、情報収集できる人間関係の構築(ラポールの形成)

いじめ防止対策委員会で情報の共有と具体的な方策の策定

すべてにおいて、保護者及びSC等の専門機関と連携する

特別活動

参加して、楽しい、成功してうれしいと感じられる特別活動を進める
: 自己有用感の育成、社会性の育成、生きる力の育成

教師の事前の準備

育てる力の明確化

子供に任せる内容の明確化

実践

計画性のある、話し合い活動: 学校で統一した話し合い活動の型を作成する(一貫教育資料参照)

低学年: 教師の指示に従って

中学年: 教師と相談しながら

高学年: 教師に相談しながら

6年間で自治
能力を育てる

中学校: 自主的な生徒会活動

伝統文化を学ぶ

- ・八丈島の伝統と文化:まず、教師が島を知り、教材化を図る
- ・周りが海、自然が多いという自然環境に基づいて文化が継承されてきた。情報機器、交通の発達により他の文化が流入し、伝統文化の必要性が薄れてきている。

1 残したい文化

- ・八丈方言 ・八丈太鼓 ・伝統的な料理 ・**伝統的な遊び** ・**伝統的な社会風土**

2 学校で行う内容

- ・方言に関する授業:各学年年3回 カリキュラムあり
 - ・**方言給食**:地域の方と一緒に給食を食べながら、方言に親しむ活動
(**実施可能学年のみ**)
 - ・**八丈太鼓**:三原小中学校の9年間で太鼓が打てるように一貫して指導する:一貫教育目標
- *その他にも、稲作、収穫祭、**劇団かぶつの観劇**などを実施する

三原小中学校一貫教育

・小中一貫教育2年目として、行事・カリキュラム・生活指導について情報の共有を推進する。

・本校は、三原学園三原小学校(通称名)とし、三原中学校と9年間を通した教育を行う

・正式名称は、東京都八丈島八丈町立三原小学校である。

平成31年度 目指す学園像

○ 基礎的・基本的な知識、技能の定着・向上

○ 異年齢との交流を活発にし、温かい人間関係を築くことができる子供の育成

○ 地域との連携を図り、島に息づく伝統・文化の保存・継承

～施設隣接の利点を生かして～

・その他の教科、領域についても、中学校と連携を図り、**無理、無駄のない効率的な指導**を推進する

・合同実施する行事

・合同避難訓練(一斉下校含む) ・三原大運動会 ・三原文化発表会・三原展覧会

・道徳授業地区公開講座 ・オリンピック、パラリンピック教育

特別な教科 道徳科

質の高い生き方をさせるための教育

道徳：自他がよりよく生きるための知恵・慣習

法令
最低限必要な共通の決まり

道徳的思考、判断、心情に加え、道徳的行為を
行う意欲と態度を育てる

A: 自分自身に関すること(善悪の判断、自律、自由と責任・正直、誠実・
節度、節制・個性の伸長・希望と勇気、努力と強い意志・真理の探究)

B: 人との関わりに関すること(親切、思いやり・感謝・礼儀・友情、信頼・相
互理解、寛容)

C: 集団や社会との関わりに関すること(規則の尊重・公正、公平、社会主
義・勤労、公共の精神・家族愛、家庭生活の充実・よりよい学校生活、集
団生活の充実・伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度・国際理解、
国際親善)

D: 生命や自然、崇高なものとの関わり(感動、畏敬の念・よりよく生きる喜
び)

外国語（英語）

- ・外国語の獲得は目的ではなく**スキル**であり、外国人とのコミュニケーションを通して他国の文化に触れ、将来、国際社会の中でも生きる力を育てる。
- ・そのために、系統的で計画的な指導を9年間で行う。* 中学校との連携
- ・T1を担当または外国語教育推進リーダーが担当し、ALTを活用しながら、**話す・聞く・読む・書くの技能**を身に付けさせる。
- ・3, 4学年は外国語活動、5, 6年生は外国語を指導の中でコミュニケーション能力を育成する。

プログラミング教育の推進

インプットした知識や経験をもとに
より良い方策をアウトプットできる人間の育成

三原小学校の研究主題

「考えること」が好きな児童の育成

～プログラミング的思考を取り入れた授業の実践をとおして～

目指す児童像

低学年:

順序や手順を考えて取り組み、自分の考えを相手に伝えられる児童

中学年:

ものごとの組み立てを分解して理解し、自分の考えを相手に説明できる児童

高学年:

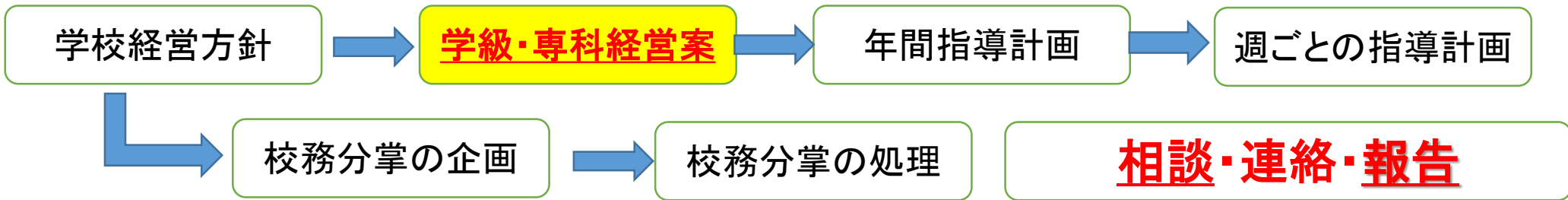
試行錯誤しながらよりよい方法を考え、考えを分かりやすく説明できる児童

学校で身に付けた「学びのプロセス」を活用し、自ら考え行動できる児童の育成

特別支援教育（特別支援教室）

- ・将来、社会参画できる能力及び資質を育成する。
 - ・インクルーシブ教育を基本とします。
 - ・子供の才能（個性）を見つけ出し伸ばす教育を推進する。
 - ・三原学園では、特別支援コーディネーターを中心に個に応じた指導を行う。
 - ・平成30年度より特別支援教室が開設され、平成31年度は、拠点校の大賀郷小学校より通級担当教員が週3日来校し、指導及び助言をおこないます。
 - ・特別支援教室専門員として、1名配置され、学習の準備、指導の記録、担任と大賀郷担当教員の調整を行います。
-
- ・全教職員で43名の児童を指導する意識をもって指導助言を行う。
 - ・親身（親の立場を理解）になった対応と早めの対応が大切です。
 - * 担任一人で抱え込まないこと、抱え込ませないことが大切です。

学校運営・予算・給食



予 算

計画的・公正・的確な予算執行

給 食

安全管理・食育・健康指導・アレルギー対応

サービスと教師としての基本姿勢

・**サービス事故0を目指す。**

・**体罰・セクハラ・パワハラ・個人情報**の紛失、漏えい・**飲酒による事故・交通事故・会計事故**

・特に島では、地域の方の厳しい目があります。服装・言動に十分留意することが大切
(**ゴミ捨て、運転、タクシー、お店などでの会話、各自治会での言動など**)

・保護者や地域の方との対応：公私の区別と教育公務員としての自覚

・子供ありきの人権尊重の姿勢

：言葉だけでなく日常生活においても人権尊重意識をもつ

・基礎・基本を大切にした指導：応用が利くようになるためには、基礎、基本が絶対条件

・子供に寄り添う、受容的、共感的理解：同情とは異なります

・子供に指導するには、まず教師の言動が重要：子供や保護者、地域は見ています

・授業によって子供を変える：指導技術の向上を主体的に行う

・**平成31年度の重点：事前の相談と事後の報告(特に全体に関わる内容)**

課題を、事前に副校長に相談していれば、先生方の責任は50%、校長まで相談していれば責任は0%です。